

ふ商家が多くあつたか言へばそうでないらしい。僅に武田伴三（現在岡清治氏宅）他四軒、現在では其お株は後樂園口及驛前は奪はれて仕舞ひ、往時西國往來の重要地點となり、城下端れで賑ふた片上町を偲ぶ一助もなるが維新後淋れた片上町ではある。

◇宇喜多秀家が西國往來の付替への時町家が出来た森下町である。町の東裏通りに巨利蓮昌寺があつたので御堂屋敷の古稱を残してゐる。此の御堂屋敷で思ひ起すのは、此の地一帯に桃樹多く栽培され御堂桃の名産地として知られたものであるが、今は一樹すらなく往時は偲べない。

◇

第六高等學校の北手田圃の中に小さな祠が祀られ「田中神社」といふ赤い鳥居がある。赤い鳥居を謂つても今は全く塗りが剥けて了つてゐる。この田中神社は咽喉の病氣を治して下さるこ、又治つたら御願ひらきに草履を持つて参るこいふ變つた田中神社の主は誰か？

永祿十年の春、備中松山城、今の高梁の城主三村元親を總大將として石川左衛門尉久智、植木下總守秀長、庄式部小輔元祐等總勢一萬餘騎、宇喜多直家を一舉に斃さんこ破竹の勢ひで備前にひた押しに押しかけて来た。先陣庄元祐は七千餘人を従へ、金光與次郎宗高を案内者として富山の南の野中を斜に押し、春日社の前の川瀬を越えて、瓶井山に側うて明善寺山（今の澤田）の城を突いたのであつた。

沼の城にあつた宇喜多直家は急遽明善寺を奪還した。これが史蹟に名高い明善寺崩れの大激戦で、聯合軍たる三村勢をベチャンコにやつつけて了つたものである。その時崩れ立つ味方の將士を勇めた庄元祐であつたが、浮足立つた同勢に聞ける筈がない。右往左往に引いて行く。ふみ留まつて討たれるもの數知れず、庄元祐は家臣有岡某と二人旗本に備へた五十人と共に、今は是れ迄延原土佐が備へに死者狂ひに突いてかゝつたが多勢に無勢忽ち元祐の兵は枕を並べて討死する。手を負つた元祐は能勢修理の爲めに討ちさられた。それもだ、持病の喘息が差し起つた爲の討ち取られたこいふので、咳の神様を祀られたらのであるこ傳はつてゐる。

(了)

岡山秘帖

〔定價金七拾錢〕

昭和六年九月二十日印刷
昭和六年九月二十五日發行

不許
複製

著者 岡山市磨屋町八一
高取 久雄

發行者 岡山市榮町四四
吉田 德太郎

印刷者 岡山市南方三三九
國府 武司

印刷所 岡山市東中山下四〇
中國民報社印刷部

發行所

岡山市榮町

吉田書店

大阪振替六六八九

發行所 吉田書局

大正六年六月八日

岡山市安河

印刷所 中國印刷局

岡山市中山下四〇

印刷所 友友

岡山市南式三三六

印刷所 太田

岡山市南式四四〇

印刷所 八

岡山市南式八八

對 價

大正六年六月二十五日發行
大正六年六月二十日印刷

岡山縣誌

岡山市安河

